



# ISET-R NEWS LETTER

1/24/2013 VOL. 2, ISSUED BY ONDA LAB, UNIVERSITY OF TSUKUBA

## Fukushima Ocean Impacts Symposium: Exploring the impacts of the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant on the Ocean

一般無料公開講演会  
事前登録をお勧めします。  
英語・日本語同時通訳付き

# フクシマと海

Fukushima and the Ocean

一般向け講演会・2012年11月14日  
Public Colloquium November 14, 2012・16:00 - 19:00

福島原発事故によって海洋へ放出された放射性核種について、  
現時点での状況を科学的な評価をもとに議論します。

東京大学本郷キャンパス・伊藤謝恩ホール  
Ito Hall, Hongo Campus, The University of Tokyo

16:00 - 17:30  
開会の挨拶  
新野 宏・東京大学大気海洋研究所所長  
海洋の放射性核種  
ケン フェッセラー・ウツホール海洋研究所  
海洋生物の放射性核種  
神田 徹太・東京海洋大学  
水産食品の安全と施策  
松田 裕之・横浜国立大学  
人の健康への影響  
ジェイムス スワード・ローレンスリバモア国立研究所  
報道の役割  
ジオフ ブルフィールド・ネイチャー誌

17:30 - 19:00  
聴衆からパネリストへの質問  
司会: 城山 英明・東京大学

開催資金提供  
国際交流基金日本センター  
日本学術会議  
東京大学政策ビジョン研究センター  
東京大学大気海洋研究所  
横浜国立大学リスク共生型環境再生リーダー育成プログラム  
ゴードン&ベッティ・モア財団  
ウツホール海洋研究所

登録ページ

[www.whoi.edu/tokyoevent](http://www.whoi.edu/tokyoevent)

Fukushima Ocean Impacts Symposium

Date: 2012年11月12-13日

Place: 東京大学 伊藤謝恩ホール

パブリックコロキウム "Fukushima and the Ocean"

Date: 2012年11月14日

Place: 東京大学 伊藤謝恩ホール

2012年11月12、13日に東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホールにおいて、日本学術会議共催の国際シンポジウム "Fukushima Ocean Impacts Symposium: Exploring the impacts of the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant on the Ocean" が開かれ、国内外の専門家や政治家、マスコミ関係者などが多数集い、招待参加者による講演、パネルディスカッション、ポスターセッションなどが行われました。

事故以来、西部北太平洋沿岸域から外洋にかけての安全性、そして海洋生態系と海産物に対する因果関係を理解するために、日本の機関や研究グループそして国際的な専門家による調査と分析が進められています。

現在までに数々の調査が行われ、調査結果が次第に明らかになりつつありますが、依然として国民は多くの基本的な疑問と懸念を残したままです。

- これからどのくらいの間、海の汚染は続くのか。
- 魚は食べて安全なのか。
- 健康への影響はどのくらいあるのか。

本シンポジウムは、こうした国民の基本的な疑問を解き、国民への広い情報提供、そして公共の不安緩和に向けて、既知と未知の課題を認識するための手段を検討する重要な会議となりました。

議論は、福島原発事故で放出された放射性物質について、海の安全性、海洋生態系そして人体への潜在的な影響が中心話題となり、白熱した議論展開がなされました。議論の中で、それらの科学的な検証に基づく報告を行い、今現在私たちは何を理解しているか、そしてまだ何を認識していないのかを明らかにし、国民に分かりやすく伝える必要性和重要性が挙げられました。さらにリスク評価、経済的影響、政策的合意、そして重要課題としてこれらの情報がどのように国民に伝えられるのかについて、招待参加者による様々なテーマの意見交換が行われました。

本シンポジウムで議論した内容は、専門家パネル(シンポジウム講演者と委員会メンバー)らにより翌日14日に開催されたパブリックコロキウム "Fukushima and the Ocean" において報告が行われました。報告に加えて、ウッズホール研究所での "Morss コロキウム形式" に従い、メディア関係者、会場の参加者との質疑応答形式でのディスカッションも行われました。

14日のパブリックコロキウムのプログラムは以下のとおりです。

## パブリックコロキウム "Fukushima and the Ocean" プログラム

- 16:00 - 16:10 開会の挨拶  
新野 宏・東京大学大気海洋研究所所長
- 16:10 - 16:20 海洋の放射性核種  
ケン ベッセラー・ウッズホール海洋研究所
- 16:20 - 16:30 海洋生物の放射性核種  
神田穰太・東京海洋大学
- 16:40 - 16:50 水産食品の安全と施策  
松田裕之・横浜国立大学
- 16:50 - 17:00 人の健康への影響  
ジェイムス スワード・ローレンスリバモア国立研究所
- 17:10 - 17:20 報道の役割  
ジオフ ブルフィールド・ネイチャー誌
- 17:40 - 19:00 パネルディスカッションおよび聴衆からパネリストへの質問  
ケン ベッセラー  
ジオフ ブルフィールド  
神田穰太  
松田裕之  
ジェイムス スワード  
司会: 城山英明・東京大学
- 19:00 - 19:10 閉会の挨拶  
ケン ベッセラー・ウッズホール海洋研究所  
植松 光夫・東京大学大気海洋研究所

今回の日本でのコロキウムに引き続き、来年 2013 年には、マサチューセッツ州ウッズホール海洋研究所にて、第 2 回パブリックコロキウムの開催を予定しています。

原発事故に関する様々な情報が錯綜する中、我々の調査によって得た情報や調査結果を国民に分かりやすく伝える必要があり、またそれが責務であることを改めて認識させられる貴重な機会となりました。このシンポジウムとコロキウムのビデオ録画は、後日、インターネットで公開予定です。

報告者：鄭 建  
放射線防護研究センター  
(独)放射線医学総合研究所

《関連 URL》

日本海洋学会 東日本大震災関連特設サイト

The Colloquium "Fukushima and the Ocean" 一般公開講演会のお知らせ

<http://www.kaiyo-gakkai.jp/sinsai/2012/10/the-colloquium-fukushima-and-the-ocean.html>

Woods Hole Oceanographic Institution

The Accidents at Fukushima Dai-Ichi Exploring the Impacts of Radiation on the Ocean

<http://www.whoi.edu/page.do?pid=108096>